

平成30年度 第1回 出張緩和ケア研修 アンケート集計

I. 開 催

- ・日 時 : 平成30年6月26日(火) 18:00~19:00
- ・場 所 : 特別養護老人ホーム山水園(庄内町)

II. 内 容

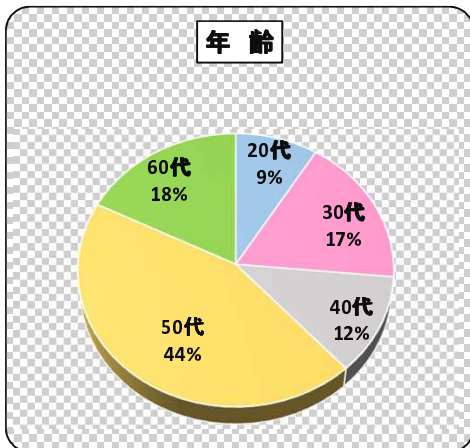
- ・テーマ : 看取りの中での関わり
- ・講 師 : 訪問看護ステーションとるて 緩和ケア認定看護師 鉦持 朝子氏

III. 参加者

- ・参加人数: 39名
- ・アンケート協力者: 34名(87%)

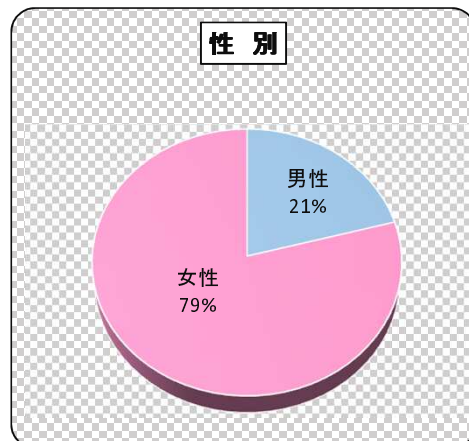
【年 齢】

20代	3
30代	6
40代	4
50代	15
60代	6
計	34



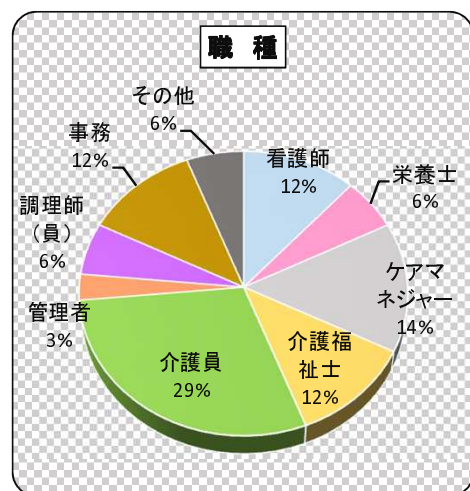
【性 別】

男性	8
女性	26
計	34



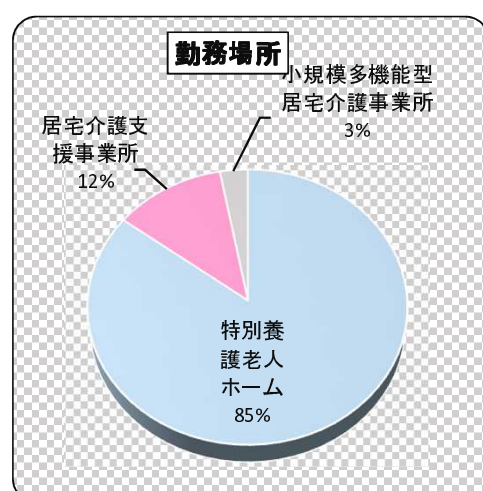
【職 種】

看護師	4
栄養士	2
ケアマネジャー	5
介護福祉士	4
介護員	10
施設管理者	1
調理師(員)	2
事務	4
その他	2
計	34



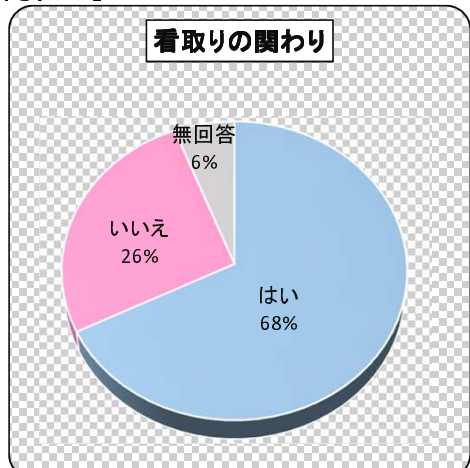
【勤務場所】

特別養護老人施設	29
居宅介護支援事業所	4
小規模多機能型居宅介護事業所	1
計	34



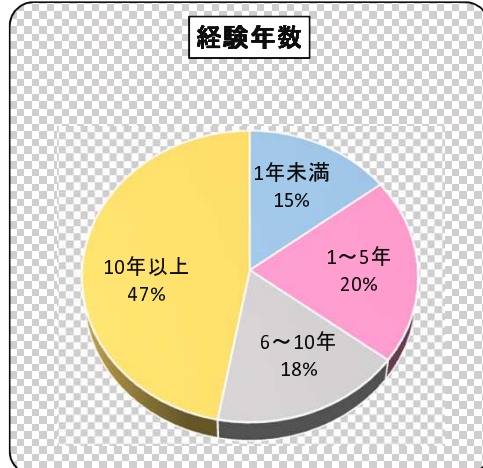
【看取りへの関わり】

はい	23
いいえ	9
無回答	2
計	34



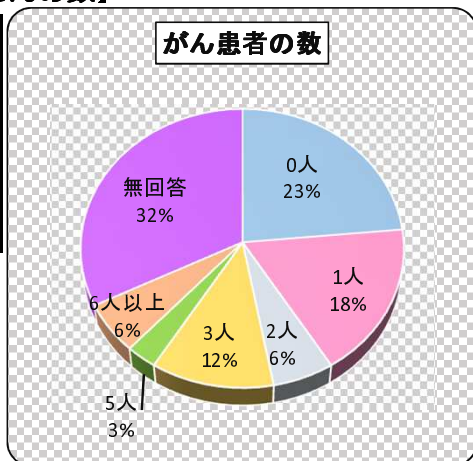
【経験年数】

1年未満	5
1年～5年	7
6年～10年	6
10年以上	16
計	34



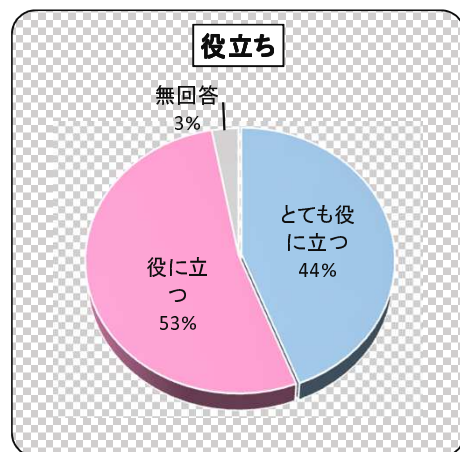
【がん患者さんの数】

0人	8
1人	6
2人	2
3人	4
5人	1
6人	2
無回答	11
計	34



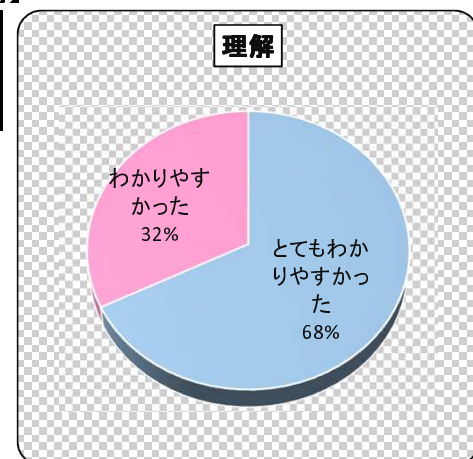
【今後の役立ち】

とても役に立つ	15
役に立つ	18
無回答	1
計	34



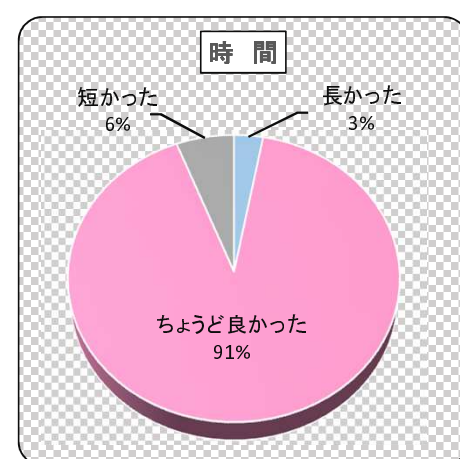
【講義の内容】

とてもわかりやすい	23
わかりやすい	11
計	34



【時 間】

長かった	1
ちょうど良かった	31
短かった	2
計	34



<自由記載>

- ▶ 自分も自宅で家族に看取られたい希望があります。その為にも、前もって家族と話し合い、希望を伝えておくべきだと思いました。実際のスライドを見ながらの講演だったので分かりやすいと思いました。ありがとうございました。(介護員 50代 女性)
- ▶ 看取りの研修を通して、介護員として出来ることを学ぶことができとてもためになる講演でした。(介護福祉士 20代 男性)
- ▶ 資料も話の内容も分かりやすく、参加してとても良かったと思います。これからの介護に役立てていきたいと思います。(介護福祉士 60代 女性)
- ▶ 話が分かりやすくとても聞きやすかったので、1時間では短く感じました。もっと聞きたい位でした。(栄養士 30代 女性)
- ▶ 今まで何人か看取り介護はして来ましたが、本人からの希望は聞くことができず、家族の希望やその方がどのような人か、好きな事、物などを聞いて、看取り介護に取り入れてきました。希望が聞けたらいいなと思いました。(看護師 40代 女性)
- ▶ とても分かりやすくお話をいただき、とても身になる研修でした。ありがとうございました。(事務員 50代 女性)
- ▶ 義祖父も義祖母も自宅で最期を迎えたのですが、話を聞いているうちに、だんだん弱っていた姿を思い出しました。二人とも最期は老衰だったのですが、苦しみことなく良かったなと思いました。今、義父も義母も80歳を超えて、祖父母のような最期を送らせてあげたいと思っています。ありがとうございました。(事務員 50代 女性)
- ▶ 看取りについて、具体的に説明して頂き大変勉強になりました。今後の業務に活かし、意思表示出来ないご本人の幸せって何か、何を望んでいるか、もっと情報を引き出し、最後まで寄り添い支えていきたいと思いました。(介護福祉士 50代 女性)
- ▶ 変素晴らしいお話でした。今後、自宅でも活かしたいと思います。祖父、祖母、父、3人とも家がいいと自宅で看取りました。いつもそばに居れて良かったです。仕事にも活かしていきたいと思います。本当にありがとうございました。(介護員 50代 女性)
- ▶ 看取り以外でも訪問看護の利用者が増えており、リハビリ、保清まで医療処置がいとも大変ありがたいと思っています。在宅での看取りの場合、訪問してくれる医師はもちろん大事ですが、訪問看護師の役割の大きさを毎回痛感しています。(在宅で看取ると近医に依頼し、急変し救急搬送されて病院で亡くなった末期がんの方を担当しましたが、病院で亡くなったことで、ケアマネである私が主治医からきつく叱られたということがありました。その際に訪問看護師より「家族の気持ちが揺らぐのは当たり前」と言ってもらったことで気持ちが楽になったことがありました)今日は実際に即した内容で分かり易く勉強になりました。ありがとうございました。(ケアマネジャー 50代 女性)
- ▶ 看取りは今の職場でよく関わるので勉強になりました。(介護員 20代 男性)

私は15年ほど前に父を亡くしています。末期がんで最期は大学病院で看取りました。生前父は家に帰りたいと常に言っていましたが、大腸がんが脊髄まで転移していたため、歩くことも立つこともできず、ベッド上のみでの生活でした。しかし今でもどうか1度だけでも自宅へ外出、外泊させてあげたかったなと思います。誰もが自分の家で死にたいと思う人が多いです。これからは、私自身も在宅での看取りに関わっていけたらとも思い、訪問看護にも興味があります。ぜひ、また先生のお話をお聞きしたいと感じました。(看護師 30代 女性)
個人的な部分でも、普段から最期の迎え方を話していたら良かったと後悔しています。これから身近な方に関しては、自分自身を含めて伝えておきたいし、普段の会話の中で聞いておくべきと考えました。(介護員 60代 女性)
看取られる方が残された家族に最後に良き記憶の中で、いかに終焉を？であったかに介護施設職員として、どのようなサポートができたか？が大変難しいが必要なのかと感じました。(事務員 50代 男性)
看取りへの理解が大変深まりました。まだまだ未熟なので、上手く看取られるか不安でしたが。今回の研修で大変勇気づけられました。ありがとうございます。(介護員 30代 男性)
看取りという難しいテーマでしたが、分かり易く教えていただき良かったです。死が近づいているときの体の変化など、知りたかったことを知れました。自分は栄養士として、利用者様やご家族の意向を大事にしながら、食べるということを支援して行きたいと思いました。本人の食べたいという気持ちを大事にしていきたいです。(栄養士 20代 女性)
鈿持先生の実践こそがACPであると感じました。ある意味あたりまえの普通な事だと思いますが、家族にとって判断は困難だと考えます。在宅と特養は違うが、多職種で関わり「平穏死」を目指して、看取り介護を実践していきたい。(管理者 60代 男性)
実際に職場で看取りに立ち会う事はありませんが(事務職のため)今回学んだことをこれから家族の看取りという状況におかれた際に思い出して接して行こうと思いました。(事務員 30代 女性)
事例のお話が大変興味深い内容で、もっと伺いたかったです。ありがとうございました。(看護師 50代 女性)
様々な職種を対象に分かりやすい内容の研修をありがとうございました。看取りは職場だけでなく、大切な家族や周りの方にも身近であり、普段漫然としている事をより具体的に考えることが大切だと思いました。貴重な時間、ありがとうございました。(看護師 50代 女性)
仕事でこれからプラスになるお話で、家族、自分にも活かしていきたいと思いました。自分も1年前に実の母親をがんで亡くしていますが、色々なことを思い出し胸が熱くなりました。本当にありがとうございました。(介護員 60代 女性)
昨年の春に大切な人を亡くし、その当時の事を思い浮かべながら講演を聞いておりました。もっとしてあげれば良かった・・・と思う事がたくさんありますが、そして悔いもあります。楽しかった思い出を胸に今後もいつも思いだしながらいこうと思っています。本日はありがとうございます。(ケアマネジャー 60代 女性)
人間誰もいつかは訪れる死について、時々考えないといけない！もっともだと思えますし年齢を重ねると自然と考えることが多くなりました。自分のこともですが、まずは親のこと、相手のことを思いながら、自分なりにできることをやって行きたいと思います。(調理員 40代 女性)
ご自分の経験を話され、また、現場を見ている生の声を聞くことができ、とても良かったです。死を受け入れることが看取りにつながるので、とても大切なんだと感じました。(調理師/介護福祉士 50代 女性)
本人の希望を叶える、共有する事の大切さを学びました。仕事でもそうですが自分の家族がこれからある事なので、もっと深く考えたいと思います。食の重要性も学ぶことが出来ました。(介護員 50代 女性)



ご協力ありがとうございました
庄内プロジェクト 看護師連携グループ